

## 閉会挨拶

### ■ 広島県地域政策局長 竹中正博

今、ご紹介いただきました広島県 地域政策局長の竹中でございます。

本日は、最初から参加された方におかれては、1時から4時間の長丁場ということで、本当にお疲れ様でした。また、このワールドカフェをコーディネートしていただいた平尾さん、そしてファシリテーション協会の皆様方、本当にご協力ありがとうございました。

私、この会を最初2階で見ていたのですが、あまりの盛り上がりと熱気に、やはり下に来たくなくなってしまいました。下に来て皆様方のお話、色々書かれていることも含めて身近で見させていただきました。最初の紹介にもありましたが、小学生から80才を超える方まで、またいろんな職業の方、男女比はわたしがざっと見た感じでは、2対1ぐらいの感じで、本当にいろんな方に参加していただき、非常にいい場になったのではないかと思います。

小学生のお子さんたちが、こういうことを言いたいというものをメモにして持ってきていただいていたりでして、私は感動して落涙しそうになってしまいました。

現在、広島県と広島市で都心活性化プランの作成を進めています。このプランは、今後の30年後を見据えながら目指すべき姿、将来像を描いていこうというものであります。

よく、何で県が入っているのですか、と言われることがあります。もちろん広島市の都心がどうなるかというのは、まず広島市にとって重要なことなのですが、やはり広島県にとっても重要です。広島県が他の地域、他の都道府県と違いを出していくために必要なものは何だろうか、と考えたときに、やはり中・四国地方の拠点としての広島市都心部が魅力的になっていくことが、今後の広島県にとっても決定的に重要であるという考えで、広島市と一緒に取り組んでいます。

では、どういうまちにしていくのか。これまでもいくつかのプランもありますが、さらにそれをブラッシュアップしていきたい。ただ、おそらく目指す姿は、単に大きい地方都市でもなく、さらに言えば大阪・東京・名古屋のようなものを目指すのかといえどもまた違う。広島という特徴を生かしつつ、どういうものがあるのか、それを考えていくことになろうかと思います。

このことはマクロ・ミクロでいうとマクロになりますけれども、では大きな話だからといって行政がどんどん自分だけでやっていいかということももちろんそうではない。マクロというのはミクロの積み重ねであり、ミクロのいろんな行動の先にあるものだと思いますので、最初に松井市長からの話もありましたが、市民の皆さん、また民間企業、団体の方々と一緒になって作り上げていきたいと、そのように考えております。

ちなみに実は私はもともと広島県の生まれではありませんでして、野村前監督と同じ大分の出身です。その後、いくつか転勤を経て、この4月から広島に住んでおります。

私は正直な所、他の都市と比べても広島というのは非常に住みやすいまち、楽しい魅力的なまちだと思っているのですが、地元の人とお話すると、わりとあまり褒めない。広島はここが足りんけー。昔はよく「札仙広福」、札幌、仙台、広島、福岡と言ったけど今はもう、「札仙広福」なんか言っとるのは、広島だけじゃ。他の3つからはそんな見向きもされとらん。そうおっしゃる方もいるのですが、そんなことはありません。ただ、わりと広島の方というのは、広島市の事を語る時にわりと遠慮がちだなあと、感じます。それをもう少し考えていくと、たぶん、もっともっと広島というのはすごいところなんじゃと。もっと魅力があるんだ。そこをもっと活かし切っていきたい。そういう広島愛のようなものがあるからこそ、そういう風におっしゃるのだなと最近思うようになってきました。

この都心活性化プランを広島県と広島市でこれから作っていきますが、このプランが少しでも広島がよりすごいまちになっていく、いいまちになっていく、そのきっかけになればと思っています。

最後に、皆様方の意見を踏まえてプランを作っていきます、と締めると締まるのですが、それはあえて申し上げないようにしたいと思います。

といいますのは、我々行政がバトンを引き継ぐのではなくて、これからも皆さんと共に考えていく、取り組んでいく、これがまちづくりに重要だと思っていますので、皆様方、特に今日ご参加の方々に、この場に限らず今後とも共に考え行動していくことをお願いしまして私の最後のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。